

①ライフスタイルの構成要素

- 《変化要因①》 医学・生命工学の発展： 長寿化⇔時間資源の飛躍的膨張
- 《変化要因②》 情報・通信革命（IT 革命）： 知的空間の宇宙規模拡張
- 《変化要因③》 移動・輸送・交通革命： 行動空間・生活空間の地球規模拡大
- 《変化要因④》 生産技術革命（ロボット化）： 労働時間短縮・余暇時間延長

- ↓
- グローバリゼーション
- 価値観の多様化
- 多選択社会
- ⇒ライフスタイルの変容⇒新しい不安と恐怖

人生 85 歳時代の総時間数は

24 時間×365 日×85 年＝74 万 4600 時間である。

1947 年に平均寿命が 50 歳に

24 時間×365 日×50 年＝43 万 8000 時間。

平等に配分される時間という最も貴重な資源は 30 万 6600 時間も伸びた。

ライフスタイルは確実に変容する

■ライフスタイルの構成要素

- [ライフステージ①]：生んでもらう：受胎する⇔生まれる（誕生）
- [ライフステージ②]：育ててもらう：育てられる（家庭で・地域で）
- [ライフステージ③]：学ぶ・学習する：（家庭で・学校で・地域で）
- [ライフステージ④]：卒業する（義務教育）⇔進学する（高等教育）
- [ライフステージ⑤]：働く：就職する
- [ライフステージ⑥]：恋する：出会う・恋愛する・別れる・出会う
- [ライフステージ⑦]：結婚する：結婚・同棲・妊娠する
- [ライフステージ⑧]：生む：出産する（第一子出産・第二子出産・第三子出産…）
- [ライフステージ⑨]：育てる：育児する（家庭で・保育所で・地域社会で）
⇔社会教育（高等教育・社会人大学院・資格取得生涯学習）
- [ライフステージ⑩]：転機を経験する：離職⇔失業⇔転職⇔職業訓練⇔再就職
離婚⇔再婚：大病⇔闘病生活⇔職場復帰
- [ライフステージ⑪]：子どもの巣立ち：子どもが自立する⇔子ども結婚⇔孫誕生
- [ライフステージ⑫]：退職する：労働からの引退・退職⇔シルバーライフ・老後生活・年金生活の開始
- [ライフステージ⑬]：休む・癒す：病気・療養生活⇔寝たきり生活・要介護生活
- [ライフステージ⑭]：別れる：パートナーと死別⇔後期シングルライフの開始
- [ライフステージ⑮]：死ぬ：死亡⇔葬式をする・しない。墓に入る

自立と自律＝経済的自立 精神的自立・【自己選択 自己決定 自己責任 自己投資】

孤独に強い＝早い家離れ 早い親離れ 早い子離れ 早い妻離れ 早い夫離れ

《安心》《安全》《安定》の社会

《参加》と《公開》の社会

透明のボールペンのように見える見える⇔ つまらないかも、だが希少種

②福祉資源

●福祉資源とは何か。経済停滞期には何が不足し、何でそれを代替できるのか。

《資源1》：人的資源：福祉サービス提供・経営人材の育成と適切な処遇

⇔膨大な地方公務員⇔伝統的なスウェーデン流解決

⇔停滞期には財政難を理由に、人員削減に突き進むことが多い。その為、職員の過重負担が発生し、ストレスが高くなり、職場の雰囲気が悪化する。

⇔必要度の高い順に福祉サービスに順位をつけざるを得なくなる。そのため、削減・省略・先送り・手抜きなどの作業が増える。

《資源2》：施設：サービス提供の地域間平等を原則。

⇒柔軟なスクラップ・アンド・ビルドと経営。

⇔豊かな財政を持つ自治体は高齢者施設の閉鎖・縮小を免れるが、財政不如意の自治体は縮小・閉鎖が進み、在宅介護が増える。

《資源3》：技術（福祉工学）：介護・介助器具・装置の技術革新

⇒街・居住空間・労働空間・移動空間・余暇空間・学習空間のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化

⇒IT技術の開発と積極的導入

⇒ロボット技術の開発・導入 など

《資源4》：財源：自助・公助・共助（互助）のバランス

⇒財源論とワンセットで議論する討議文化の確立

⇒国際競争力のある企業＋納税意欲ある市民＋納税人口の拡大

⇒ 民営化が可能な自治体と、利潤追求型企業が進出しそうもない自治体に二極化する

⇔「選択の自由」の革命と言われても選択肢がない自治体が多くなる。

⇒「産業こそ福祉の糧」「強い国際競争力を持つ企業こそ福祉の糧」

《資源5》：リーダーの思想と哲学：理念と枠組みの明確化⇒制度運用の正当性の淵源

⇔大統領・首相 知事・市町村長 主要政党のリーダー 政権政党の実力者

野党の実力者 巨大利益団体のリーダー

⇒情報発信力と説得力

⇒説得力の基礎は《情報公開》《内部通報奨励制度》例：サーラ条項

《資源6》：「自分の問題」という意識の広まり：

●義務教育での福祉教育と税金制度に関する教育

- 福祉マインドの定着度：「税が見える」「福祉が見える」
 - 特に、5と6がその他の前提⇒ポピュリズムに直撃される大衆民主主義の下で
 - 低成長、国際競争激化の時代にどう調達するか
- ↓
- 21世紀の福祉システム構築の与件

③スウェーデン・ヨーロッパでも最も《貧しい農業国家》を、

世界でも最も《豊かな福祉・工業国家》に変身させた理由

第三の道＝生産過程は資本主義的な競争市場 分配過程は社会主義的な平等主義
 分かりにくい、どっちつかず、はっきりしない＝レフトからもライトからも批判

- [01] 鉄道建設による資源移動策→消費市場への接近
- [02] 次第に活用された豊富な資源⇔鉄鉱石・水・パルプ・木材
- [03] 高い科学技術水準と先端技術開発力：ノーベル賞は1901年創設
- [04] 平和の伝統：200年間の平和継続
 - ⇔参戦国への物資補給と戦後復興資源の輸出
 - ⇔社会資本の投資完了
 - ⇔政治への基本的信頼感の醸成⇔高負担政策の受容
- [05] 教育環境の整備⇔質の高い労働力の安定供給
- [06] 合意形成型政治の定着⇔《第三の道》 《lagom är bäst》
- [07] 社民・LO複合体⇔プラグマティックなリーダー
 - ⇔平和的・協調的な労働市場
 - ⇔産業構造の転換・積極的な産業育成政策⇔「産業こそ福祉の糧」
 - ⇔賃金自己抑制・物価凍結令
- [08] 国際政治からの挑戦⇔危機の存在が平和国家の経済財

批判の定番

- [01] 過剰福祉は競争原理を否定する傾向があるので、国際市場での競争力が低下する。
- [02] 官僚機構が肥大化し、息詰まるような官僚主義がはびこる。
- [03] 過剰福祉が勤労意欲を低下させ、貯蓄意欲をそぐ。
- [04] 高負担政策のため、企業から経営意欲を奪い、企業の国外脱出と加速する。
- [05] 平等主義の徹底はサービスの画一化に繋がりやすい。
- [06] 平等なサービスを提供するために、国民総背番号制度などが導入され、それが管理社会化を促進している。
- [07] パブリック・セクターの超肥大がサービス精神を低下させている。また、民間活力が低下する。
- [08] 過剰福祉で青年層に倦怠感が拡散し、やる気を失った青年は麻薬乱用に走ったり、アルコール依存症になるかもしれない。自殺も多くなる。怠け者天国。

- [09] 重税政策は地下経済を繁殖させる。
- [10] 高負担のため、青年の国外流出が止まらない。

苦悩の理由

- [01] テクノロジー特権の崩壊
- [02] 輸送技術の飛躍的発展
- [03] 石油ショック
- [04] 平和の継続
- [05] 膨張主義経済政策
- [06] 国際競争力低下と設備投資立ち遅れの悪循環
- [07] 福祉病